

湯沢翔北高・ギャワリさん（ネパール出身）



全校集会でカンボジアでの研修について発表するギャワリさん

ギャワリさんは、9年、横手市十文字町でインド料理店を営む両親と暮らすため来日。かねて世界平和に関心があり、国際交流イベントなどで接点があった湯沢JICの会員から研修事業のことを聞き、参加を決めた。

4、5月のオンライン研修では、国内各地の中高生とともに多様な意見を聞き、カンボジアには7月30日〜8月6日の日程で滞在した。首都プノンペンで旧ボル・ポト政権による大虐殺があった「キリング・フィールド」、拷問の現場だったトゥール・スレン博物館などを見学。アンコールワット遺跡で知られる同国北西部のシムリアアップといった地域も訪ね、現地の同年代の人々と世界平和のために互いの国が果たすべき役割をテーマに見聞交換した。

研修で少年兵が虐殺行為に関与させられていたなどの説明に触れ、「同じ人間なのにこれだけ残

「世界平和、実現したい」

ネパール出身で湯沢翔北高校2年のギャワリ・ディブジャルさん(17)は「横手市十文字町JIC」の国際研修事業に参加、20人のメンバーの一員として、カンボジアに渡り世界平和の重要性について学んだ。「失敗を恐れずに行動を起こし、世界平和の実現に取り組みたい」と意気込む。

JIC研修参加 大虐殺の悲惨さ実感



カンボジアでは、ギャワリさん(左奥)ら研修参加者が現地の人と意見交換した=8月1日、シムリアアップ(ギャワリさん提供)

虐害などができるのかと悲しく、腹立たしい気持ちになった。一方「現地ではアンコールワットなどの美しい歴史を引き継ぐとともに、次のボル・ポトを出さないために負の遺産とされる部分も展示されていた」と振り返る。

帰国後は自身のインスタグラムに国際平和を訴える投稿をしている。終戦記念日の8月15日には平和を守り続けている日本を例に、争いを思いとどまるよう各国に求めるメッセージを日本語と英語で載せた。

8月29日には湯沢翔北高の全校集会で研修での経験を報告。「戦争がいかに悲惨か、平和なつ、どこで起き、平和な状態が破壊されるかは誰にも分からない。SNS(交流サイト)を通じて戦争の怖さ、恐ろしさを発信していく」と話した。

将来は世界平和に貢献するNPO団体を立ち上げ、活動していきたい考えを持つギャワリさん。日本JICの研修事業では、10月に米ニューヨークの国連本部を訪問する計画もあり、「争いをなくし平和を実現するため、貧困の解消と幼児教育の充実を国連に伝える分の考えを国連に伝えて意見を聞きたい」と意欲をにじませた。

（小林智彦） ©秋田魁新報社